

2022年3月31日
DealWatch 編集部

リフィニティブ DealWatch、2021 年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門の発行体に「ルネサスエレクトロニクス」 引受ハウスに「野村証券」を選定

リフィニティブの「DealWatch」は、2021 年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオフリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2021 (ディールウォッチ・アワード 2021)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995 年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意工夫などを考慮し選定されています。

2021 年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「非居住者円債」「サステナブル・ファイナンス」「株式」の計 6 部門で構成されています。総合部門では発行体に「ルネサスエレクトロニクス」、引受ハウスには「野村証券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006 年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DealWatch Awards 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2021 年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

リフィニティブについて

ロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の Refinitiv(リフィニティブ)は、金融市場のデータとインフラストラクチャの提供で世界をリードしています。リフィニティブは、約 190 カ国にわたって 4 万以上の企業や 40 万を超えるお客様にサービスを提供しながら、世界中の金融市場に関わる人々を支援しています。また、重要な投資や取引、リスク判断をお客様に自信をもって行っていくための情報やインサイト、テクノロジーを取り揃えています。独自のオープン・プラットフォームと業界トップクラスのデータおよび専門的な知識を組み合わせることで、人々を取引機会と選択肢でつなぎ合わせ、お客様とビジネス・パートナーの皆様のパフォーマンス、革新、成長を促進してまいります。詳しくはウェブサイトをご参照ください。<https://www.refinitiv.com/ja>

以上

DealWatch に関する問い合わせ先:

池内 理乃

DealWatch 編集部

電話番号: (03) 6441-1316

DEALWATCH AWARDS 2021 受賞一覧**総合部門****<Issuer of the Year>****ルネサスエレクトロニクス**

買収に向け大規模増資と売出を完遂するとともに発行体初の社債をドル建てかつグリーンボンドで大型起債。半導体業界の好調なトレンドを背景に両市場を活用した果敢な財務戦略で投資家基盤の強化と拡大につなげた。

<House of the Year>**野村證券**

健全な資本市場の維持と発展に向けリーダーシップを発揮した。コロナ後を見据えた発行体の成長戦略を支援するとともに急変する市場環境では機動的な案件運営で調達を実現。新たなスキームの開発にも積極的に関与して市場の可能性を拓いた。

社債部門**<Bond Issuer of the Year>****楽天グループ**

3年から15年までの幅広い年限で6トランシェ、総額3000億円を他の銘柄よりも高い利率で起債して大型調達が必要な発行体にモデルを示した。ハイブリッド債の買入れ消却では新発債のマーケティング手法を利用して、流通市場にも配慮した。

<Bond House of the Year>**みずほ証券**

本年度を代表する大型案件で主幹事を務めたほか、ハイブリッド債では最多案件を事務主幹事として執行。不安定な市場環境では果敢に起債運営を見直して市場の安定消化につなげたほか、新商品の開発により市場の発展に貢献した。

<Bond of the Year>**第1回関西電力債 (900億円、60年NC5、劣後債)**

みずほ証券／野村証券／大和証券

第2回関西電力債 (150億円、60年NC7、劣後債)

みずほ証券／野村証券／大和証券

第3回関西電力債 (1150億円、60年NC10、劣後債)

みずほ証券／野村証券／大和証券

金利ボラティリティが上昇し、投資家、発行体共に市場から距離を置く中、投資家の目線を集約することで難易度が高いハイブリッド債で総額2200億円を調達。柔軟な案件運営は逆風下での起債のあり方の模範となった。

<Debut Debt Deal of the Year>**第1回GMOインターネット債 (100億円、3年)**

大和証券／SMBC日興証券／みずほ証券

第2回GMOインターネット債 (150億円、5年)

大和証券／SMBC日興証券／みずほ証券

国内SB市場の発行体では伝統的な大企業が主流となる中で、ネット企業の草分け的な存在が市場に登場。明確な比較銘柄が存在しないことから独自の水準を打ち出した起債運営は、後続となるネット企業の手本を示した。

<Innovative Debt Deal of the Year>**第42回ANAホールディングス債 (200億円、5年)**

SMBC日興証券／野村証券／みずほ証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

環境目標が未達の場合、寄付をするという世界初のスキームを導入。より広範な社会へのインパクト創出が期待されるほか、仕組債の商品性から外れることで投資家層の拡大につなげ、債券市場に同スキームを定着させる先駆者となった。

<Offshore Bond House of the Year>**モルガン・スタンレーMUFG証券**

本年度を代表する非金融を含む主要案件に軒並み参画。本邦事業会社による初の外債発行のうち4件のブックランナーを務めた。事業会社の調達手段の拡充と投資家の運用先確保という両者の選択肢を広げる役割を果たした。

<Offshore Bond of the Year>**NTT ファイナンスユーロ債 (6 億 5000 万ユーロ、4 年)**

JP モルガン・セキュリティーズ／モルガン・スタンレー・インターナショナル／メリルリンチ・インターナショナル／
ゴールドマン・サックス・インターナショナル／BNP パリバ／野村インターナショナル／みずほインターナショナル／
英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット／大和証券キャピタル・マーケットツヨーロッパ

NTT ファイナンスユーロ債 (8 億 5000 万ユーロ、7 年)

JP モルガン・セキュリティーズ／モルガン・スタンレー・インターナショナル／メリルリンチ・インターナショナル／
ゴールドマン・サックス・インターナショナル／BNP パリバ／野村インターナショナル／みずほインターナショナル／
英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット／大和証券キャピタル・マーケットツヨーロッパ

発行体にとって海外市場で初めてのグリーンボンドとなった。国内債と合わせて総額 5000 億円の調達で、発行体が掲げたカーボンニュートラルに向けた取り組みが評価され、不安定な市場環境の中、主要投資家が軒並み出動した。

地方債部門**<Local Government Bond Issuer of the Year>****共同発行市場公募地方債**

新型コロナの感染症拡大で地方自治体の一時的な税收減対策で新設された特例債。危機対応時でも柔軟かつ有効な資金調達が可能ということを示した。1 年債、主幹事方式、ポット方式と過去の共同債にはない異例づくめの案件となった。

<Local Government Bond House of the Year>**野村証券**

コロナ禍における自治体の機動的な資金調達をサポート。金利が急騰する局面ではスプレッドプライシングを採用して新たな水準を形成することで安定消化につなげた。調達の提案力や起債運営能力の高さを要所所で示した。

<Local Government Bond of the Year>**千葉県令和 3 年度第 8 回公募公債 (200 億円、5 年)**

シ団方式、代表幹事：千葉銀行

金利急騰で絶対値プライシングが困難となり、機転を利かせてスプレッドプライシングに変更。市場環境に即した適正な水準を確立した。高速道路会社など公共セクターの債券も同手法へと切り替わるなど後続の安定的な消化の礎を築いた。

非居住者円債部門**<Cross-border Yen Bond House of the Year>****SMBC 日興証券**

多くの非居住者発行体の調達に関与し、新顔を円債市場に呼び込むなど市場の活性化に大きく貢献。サムライ債市場では単独主幹事案件を唯一務め、国内投資家に海外のクレジットへの運用機会を次々提供した。

<Cross-border Yen Bond of the Year>**第9回 BPCE 債 (746 億円、10 年 NC5、劣後債)**

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

第10回 BPCE 債 (58 億円、15 年 NC10、劣後債)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

第11回 BPCE 債 (90 億円、6 年 NC5、非上位債)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

第12回 BPCE 債 (149 億円、10 年 NC9、非上位債)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

第25回 BPCE 債 (250 億円、5 年)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

第26回 BPCE 債 (87 億円、10 年)

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／みずほ証券／ナティクス日本証券／野村証券

シニア債と非上位債に劣後債を加えた異なる商品をサムライ債市場で同時起債。プレミアムをしっかり乗せたスプレッドで、同市場にロットを伴う運用選択肢を投資家に提供。フリークエントイシューアとしての存在感を示した。

サステナブル・ファイナンス部門**<Sustainable Finance Issuer of the Year>****日本郵船**

国際海運機関(IMO)の温室効果ガス削減目標と政府のロードマップに合致した長期戦略を策定したファイナンスモデル事業第1号となり、国内初のトランジションボンドを発行。今後の同債拡大の礎となり、ベンチマークとなる調達を実現した。

<Sustainable Finance House of the Year>**みずほ証券**

社会貢献債で国内最多のストラクチャリング・エージェントを務め、社会課題に取り組む発行体に多岐にわたるフレームワーク作りを支援。発行体・投資家層を拡大し、潮流を捉えた新規商品を提供することで同市場をけん引した。

株式部門**<Equity Issuer of the Year>****ANA ホールディングス**

業績修正の発表後、アフターコロナを見据えた事業モデル変革の加速に向けた大型調達を実施。投資家の警戒感が高まる逆風の中でのローンチとなったが、臨機応変な起債運営により財務の柔軟性を確保した資本増強の可能性を拓いた。

<Equity House of the Year>**大和証券**

本年度最大の日本郵政の売出でトップレフトを務めてシ団との円滑な協働を図ったほか、サイズを問わず幅広い案件で主導的な役割で引受力を示して実績を積み上げた。機動的な案件運営や新たなスキームの開発など市場の活性化にも貢献した。

<Equity Deal of the Year>**西日本旅客鉄道**

[払込日 09/17] 野村証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル／SMBC 日興証券

鉄道需要の落ち込みが厳しい事業環境下にありながら、需要回復期における新たな成長、強固な財務基盤確立を目指してJR グループ初となる大型公募増資を敢行。周到な説明により投資家の理解を得たことで株価は堅調に推移した。

<IPO of the Year>**ビジョナル**

[払込日 04/21] 野村証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル

日本の HR テック市場を変革したトップランナーとしての評価を徹底したマーケティングや、新規かつ複数の海外著名投資家からの投資意向の獲得などによって最大化。本邦市場最高となる 88.5%の海外配分比率を達成した。

<Equity-linked Product of the Year>**メルカリ 2026 年満期ユーロ円 CB (250 億円、5 年)**

モルガン・スタンレー・インターナショナル／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／みずほインターナショナル／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット／大和証券キャピタル・マーケットヨーロッパ

メルカリ 2028 年満期ユーロ円 CB (250 億円、7 年)

モルガン・スタンレー・インターナショナル／ゴールドマン・サックス・インターナショナル／みずほインターナショナル／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット／大和証券キャピタル・マーケットヨーロッパ

上場後初の連結ベースでの黒字化を発表し、高値圏にあった株価やグローバル市場で CB に対する投資家のアペタイトが良好な好機を捉えて投資資金を確保。成長への期待を集めて過去最高水準の転換プレミアムでの調達を実現した。

<J-REIT Deal of the Year>

GLP 投資法人

[払込日 07/06] 野村証券／SMBC 日興証券／みずほ証券／シティグループ証券

市場での変動リスクを抑える J-REIT 初の期間短縮型グローバルマーケティングを採用。コロナ禍でも時機を捉え直近 1 年間で 3 回の増資を実行して外部成長を加速している姿勢に対し、過去最高数の投資家が参加した。

<Innovative Equity Deal of the Year>

Spiber（第三者割当増資および事業価値証券化）

[払込日 09/30] 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券（フィナンシャルアドバイザー、アレンジャー）

知的財産の潜在的市場価値や将来的なキャッシュフローなどをパッケージ化して調達する事業価値証券化と、海外の著名投資家からの出資を組み合わせる異例の大規模調達を達成。スタートアップ企業の調達手段を多様化した。

以上